

カンルンガンチャリティーコンサート 2009 開催報告書

フィリピンストリートチルドレン支援事業、カンルンガンチャリティーコンサート 2009 が終了いたしましたのでご報告申し上げます。

I、事業概要報告

1. 名 称：カンルンガンチャリティーコンサート 2009 - ぼくらが今できること -
Presented by HIKARI GROUP
2. 日 時：2009年3月20日(金/祝)
15：00 開場 15：40 開演 18：50 終了
3. 会 場：甲南学園 甲友会館 大ホール
4. 主 催：特定非営利活動法人 世界平和支援協会(AWPS) 学生スタッフチーム
5. 共 催：特定非営利活動法人 芦屋市民まつり協議会
Do The Music 芦屋実行委員会
6. 協 力：学校法人 甲南学園（甲南大学 甲南高等学校 甲南中学）
社団法人 芦屋青年会議所
7. 後 援：兵庫県・神戸市・神戸商工会議所
8. 提 供：HIKARI GROUP
9. 協 賛：アサヒカルピスビバレッジ株式会社、岡安商事株式会社
株式会社 JTB 西日本 教育旅行 神戸支店、株式会社建築計画研究所
松尾繊維工業株式会社、象印マホービン株式会社、
オリバーソース株式会社、株式会社クール、株式会社エイティズ、
株式会社セイカ、不二熱学工業株式会社、信光住機株式会社
株式会社ウエシマコーヒーフーズ、
大生交通株式会社、早駒運輸株式会社
株式会社亀井堂総本店、なぎさ屋ヒットクリーニング
10. 出演校：甲南高等学校 ブラスアンサンブル部
聖母学院高等学校 ハンドベル部
神戸大学付属住吉中学校 コーラス部
関西学院高等学校 グリー部
灘高等学校 クラシック研究会

II、事業内容報告

1. 来場者数 : 218 名
2. 参加者(出演者等) : 146 名
3. 募金額 : 75,150 円
4. チャリティー商品売り上げ : 47,559 円



① [ステージイベント]

◇高等学校・中学校 音楽系クラブによる演奏

関西圏の有名な中高等学校音楽系クラブが、各クラブ 20 分程度、3～4 曲を披露。

◇支援先 NGO の紹介

AWPS の支援先団体である、現地 NGO カンルンガン・サ・エルマについて、弊団体学生スタッフの藤澤憲人より紹介。また、冒頭では、2009 年 3 月に藤澤が渡比した際、収録してきたカンルンガン代表からの本コンサートに対するメッセージを放映。



◇チャリティーグッズの紹介

ホールでプロモーション販売を行っていた、チャリティードリンク及びカンルンガングッズについて、弊団体学生スタッフの日阪大起より説明。チャリティードリンクの収益がカンルンガン支援に繋がっている事や、カンルンガングッズとして販売しているミサンガや、ポストカードがカンルンガンの子ども達が作成しており、自立支援プログラムの一環であること等を紹介。AWPS が奨めている、「生活を通じたボランティアの提供」という理念を多くの方に感じていただける機会となりました。

◇スタディーツアーの紹介

AWPS 学生スタッフチームが毎年開催しており、2009 年 8 月にも開催を予定しておりますフィリピンマニラへのスタディーツアーを、代表の畠山洋子をより紹介させていただきました。今回は、弊団体が企画を手がけ、株式会社 JTB 西日本教育旅行が主催するツアーで、過去に開催してきたスタディーツアーでの写真を交えながら、現段階で予定している行程について説明させていただきました。



◇「将来の夢」作文朗読

カンルンガンで生活している子ども達を書いた、将来の夢についての作文を甲南小学校 6 年生の中矢健太君と廣田真理衣さんが代読。心のこもった作文朗読に多くの人から『感動した』とのコメントを頂戴しました。

◇テーマソングの合唱

各学校から 3～8 名の代表者に出てきてもらい、本コンサートのテーマソングである「世界がひとつになるまで」(作詞 松井五郎 作曲 馬飼野康二 編曲 式地紗綾香)を合奏・合唱。また、奏者の後ろにはフィリピンの町並みや、ストリートで生活している子どもの写真、スモーキーマウンテンの様子などを、自分たちにできること考えようというメッセージと共に放映しました。



② [ロビーイベント]

◇元ストリートチルドレン自立支援グッズプロモーション

カンルンガンで生活する、元ストリートチルドレンたちが作った、ミサンガ、ポストカード、ピアスを紹介。また、ご来場者の強いご要望があったため、販売も行いました。



◇チャリティードリンクプロモーション

通常よりも安くドリンクを販売しながら、その値段にはチャリティー基金を上乗せしてあるため、購入すること自体がカンルンガンへの支援に繋がるといふ、チャリティードリンクプロジェクトのプロモーション販売を行いました。(協力：アサヒカルピスビバレッジ株式会社)

◇カンルンガン紹介 VTR 上映・写真パネル展示

カンルンガンの活動の様子を撮影した映像を、弊団体スタッフが編集。その VTR をロビー内で放映しました。また、スタディーツアー等で弊団体

スタッフが渡比した際に撮影した写真の中から、18 枚を選び、パネルとしてロビーに展示しました。



◇メッセージカード記入

ご来場のお客様にカンルンガンで生活している子ども達へのメッセージをメッセージカードにご記入いただき、ホール内に展示している模造紙に貼り付けていただきました。お預かりした、158 枚にも及ぶメッセージは、AWPS 学生スタッフチームが責任を持ってカンルンガンに届けさせていただきます。

◇募金活動

各ブースに募金箱の設置し、また、閉演後、スタッフが手に募金箱を持ってカンルンガンへの支援を呼びかけたところ、大勢の方から温かいご支援を頂きました。



Ⅲ、総括

今回、カンルンガンチャリティーコンサートを開催するにあたり、様々な団体、学校、企業からのご支援を賜り、関係各位には多大なご協力を賜りました。弊社では、組織として 400 人規模でのイベントを運営した経験が無く、さらには実行委員会のコアスタッフが高校生というこの事業に対しては、団体内でも、開催に賛否両論ございました。

しかし、現在、弊社スタッフの中に、本事業を行ったこと、来年以降も継続していくことに異論を唱えている者はありません。と申しますのも、本事業を開催することで周囲に与えたソーシャルインパクトと、スタッフが本事業を通し得た成長実感、これらは何物にも変えがたい大きなモチベーションとなり、第 7 期を迎えた弊団体の活動を支える大きな柱の一本となっているからです。

閉演後のロビーにて、また、事業開催日の翌日には大勢の方から、お電話とメールにて、お褒めの言葉とご賞賛を賜りました。これらの内容は、今までフィリピンの子どもの現状を知らず、今回のコンサートをきっかけに目を向けようと思ったという内容

のお言葉がほとんどでした。また、ご出演いただきました中学校・高等学校の生徒さんからも『ストリートチルドレンの子どもたちが頑張っているのだから自分達も頑張らな
いといけないと感じた』などの感想を聞くことができました。また、2009年4月4日、
5日と開催されました芦屋さくら祭りに出店しプロモーション活動を行っておりました
ところ、チャリティーコンサート見ましたとお声がけいただく機会が幾度となくありま
した。さらには、ご出演いただきました学校様からも来年もぜひ出演したいというお言
葉を頂き、灘高等学校様からは生徒会として是非何か協力したいというお申し出もいた
だきました。これらのことから『より多くの人にフィリピンのストリートチルドレンが
おかれている状況を伝える』という本事業の開催趣旨が達成されたものと自負しており
ます。前述しましたように、初の試みながら、多くの方からご支持をいただき、また、
運営スタッフ内でも評判の高かった本事業は次年度以降も継続することとなっております。
しかし、本事業では反省すべきところが多々あります。関係各所への連絡ミス、
または連絡の遅れ、プロモーション不足など、継続するにはこうした問題を改善してい
かなければなりません。今後は、10年後本事業をどういったものにしたいのか、将来
のイメージを明確にした計画の立案を、高校生中心という当初の理念を保ちながら実践
していきたいと考えております。

最後になりましたが、ご協賛をいただきました方々をはじめとする、関係各所の皆様
には多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びし、同時に多大なご協力を賜りましたこと
に厚く御礼申し上げ、カンルンガンチャリティーコンサート 2009 の開催報告とさせて
いただきます。

カンルンガンチャリティーコンサート 2009

実行委員長 森岡 麻由

実行委員会スタッフ一同